

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 109

事業名	まつり補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	市長公室			款	総務費・2款
電話	0799 - 43 - 5002			項	総務管理費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	企画費・5目	南あわじ市補助金等交付規則
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_			
	まちづくりの目標	一人ひとりが明日を拓くりーダー【教育】			
	施策目標	南あわじ市をよくする地域活動に、生きがいや使命を見出すNPO や市民団体を育てる			
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託	負担金補助	

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に)	
		まつりを運営する市民、参加する市民、市外からの観光客等	対象人数(人) 50,000
		市民組織やNPOによる企画・運営に関わる市民まつりの開催によって、地域活動に生きがいや使命を見出す人材を育てる。 祭りに参加する市民やボランティア相互の連携を図り、子どもたちが地域活動に参加する機会を提供し同時に、市民に南あわじ市の魅力を知る機会とし、地域活性化を図る。	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか)	
		<p>南あわじ市民まつり「淡路夢まつり2006」 観客：延21,500人 関係者：延700人 8月26日～27日 場所：淡路ファームパークイングランドの丘(無料開放) ステージ：和太鼓グループ「麓」、保育園児140人のはばタンダンス、コンサート 高校生の和太鼓演奏、中学校合同ブラスバンド演奏、はも早食い、グルメ街道 産業祭：加地亮展、建設用重機体験、自動車解体、まぐる丸焼き、防災フェア ：消火器体験、消防はしご車体験、体験ホール：南淡路だんじり唄交流会、 フィナーレ 1,000人の阿波踊り</p> <p>南あわじ春まつり 5月3日 場所：三原健康広場 観客：10,000人 関係者：1,500人 市内のだんじり37台(布団32台、投げ5台)、獅子舞7団体、だんじり唄17団体 フリーマーケット、屋台</p> <p>慶野松原花火大会 7月29日 場所：慶野松原海水浴場 観客：15,000人 関係者：100人 打ち上げ花火2,800発、はばタンダンス、宝探しゲーム</p>	
背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など)		
	市民まつりは、市民相互の連帯意識の高揚と郷土愛の育成を図るため、多くの市民が一堂に会し、楽しくつどい、ふれあいのある「市民参加型の祭り」を開催した。事業計画は実行委員会から南あわじ市商工会青年部へ委託した。 南あわじ春まつりは、旧三原町で14回にわたり開催されていた「三原町春まつり」を継承して地域のまつりとして開催。今回は、旧三原町以外からのだんじりも参加した。 慶野松原花火大会は、旧西淡町で開催されていた、西淡ふるさとまつりを継承して地域のまつりとして開催した。		
	事業実施主体	<input type="checkbox"/> 市直営 <input checked="" type="checkbox"/> 民間・その他 (市民まつり実行委員会他)	
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から		
	4・29グリーンフェア(7,000千円)緑町、西淡ふるさとまつり(6,300千円)西淡町、三原町春まつり(2,500千円)三原町人形まつり(5,000千円)三原町、南淡まつり(7,000千円)さくらまつり(100千円)サンドアートコンテスト(280千円)南淡町、うずしおマラソン(4,800千円)南淡町教委。各イベントについては、合併時に実施時期を含め新たなイベントとして実施。桜まつり及びサンドアートは補助金廃止の方向で検討していた。		

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

	指標名	補助金				指標単位
						千円
「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標説明 (指標算出方法等)	市から実行委員会への補助金				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	0	12,500	10,000	10,000	
	実績値	0	13,330	10,495		
	達成度 (%)	-	106.6	105.0	-	
	目標値設定の考え方	市全体の祭りの数、旧町での補助額を参考にして18年度は、市民まつり補助金5,000千円、だんじり祭り補助金2500千円、慶野松原花火大会5,000千円とした。				
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	入り込み客、参加者数、従事者数				指標単位
						人
	指標説明 (指標算出方法等)	島内の祭りへの参加者から推定				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	0	50,000	50,000	50,000	
	実績値	0	48,800	49,500		
達成度 (%)	-	97.6	99.0	-		
目標値設定の考え方	会場警備及び輸送量等から推定					
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	直接事業費 (千円)	12,240	13,330	10,495	10,000	
	市民まつり補助金	0	5,830	0	0	
	だんじり祭り補助金	0	2,500	2,500	2,500	
	慶野松原花火大会	3,550	5,000	0	2,500	
	福良湾海上花火大会	6,190	0	5,495	2,500	
	南あわじ食と文化の市民まつり	0	0	2,500	2,500	
	その他(秋まつり・雪まつり)	2,500	0	0	0	
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他	2,740	830	2,495		
	一般財源[A]	9,500	12,500	8,000	10,000	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	1,842	1,794	1,806	1,505	
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1	
事業量1(事業に要した日数)	60	60	60	50		
事業量2(事業に要した人数)	1	1	1	1		
年間経費([A]+[B])	11,342	14,294	9,806	11,505		
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	0.2	0.3	0.2	0.2		
受益者人数(48,800)1人当り経費(千円)	0.2	0.3	0.2	0.2		
経費に関する補足説明	その他財源 18年度は、企業寄付金830千円。19年度は企業寄附金495千円(福良海上花火大会あて)、合併一体化等補助金2,000千円					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
達成度	活動結果指標目標達成度	%	-	106.6	105.0	-
	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 市民まつりは、18年度に第1回として開催。旧町からの地域のまつりも同様に開催した。商工会青年部が中心となって企画、市の各種団体役員による同実行委員会で開催した。 地域のまつりでは、各地域の自治会、商工会、観光協会、老人会等各種団体による地域での実行委員会を組織して開催した。 市民団体による手づくりのまつりを開催し、地域活動に対する市民の意識は高められている。一方、各まつりで保安・警備を担う団体の負担が大きくなっている。					自己評価 (5点評価) 3
有効性	成果指標目標達成度	%	-	97.6	99.0	-
	成果向上率	%	-	-	1.4	-
	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 参加者及び関係者数が多いことから、有効性が高いと思われる。 イベントの企画・立案、運営等には市民が関わっているが、当日の運営および事務局は市職員が行っている。					自己評価 (5点評価) 3
効率性	活動実績1単位当り経費	千円	-	1.1	0.9	-
	効率性増減率	%	-	-	12.9	-
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 補助額については、旧町時代従来と比較しても最低額である。 平成18年度は、市民まつりと地域のまつりに補助金を交付した。 参加者及び関係者数が多いことから、効率性は高いと思われる。					自己評価 (5点評価) 4
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低				
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 回数を重ね開催していた地域のまつりへの市民ニーズは、高い。 市民まつりへの認識は浅いが、市の一体感の醸成のために開催する意義は大きい。					自己評価 (5点評価) 4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 市民まつりと地域のまつりの位置づけ、緑地域のまつりの開催、協賛金の配分などの課題がある。 まつりの事務局は市役所職員が担っており、連絡調整、会議開催等の準備事務を行い、同職員が、開催当日のまつりのスタッフとして運営にあたることが多く、「市民による手作りのまつり」とはなっていない。 今後のまつりについて検討する「市民まつり運営委員会」を19年4月に設立させた。構成員は、各地域のまつりの実行委員、市各種団体役員、商工会会長、JA組合長。同委員会は、19年度の各地域のまつりを市民まつりと位置づけ、4地域に各250万円を配分する。					<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>評価グラフ</p> </div>

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>市民まつり運営委員会により今後の方向性を決定する。20年度以降のまつりは、同運営委員会ですまつりのあり方を検討する。</p> <p>19年度からの急変を回避するため、20年度は19年度同様に地域のまつりに補助金を交付。補助金は、現状の10,000千円を上限とする。(19年度は、4地域のまつりを市民まつりと位置づけ補助金を交付)</p>	<p>運営委員会では、市民ニーズを把握し、市民からのアイデア等をもとに、まち全体の一体感を醸成し、機運を高めるまつりのあり方を提言する。地域のまつりは、各保存会等を組織し実施する方向へ誘導する。手法の見直しや規模の縮小等により、経費を削減し、市補助金を無くする。</p>
(現状維持以外の改善方法)		<p>市民まつり開催は、合併10周年、市歌・市憲章等発表、新庁舎竣工等記念となる市の式典の一部として実施する。また、既存の産業振興や観光振興を目的としたまつりと同時開催し、集客力の高いまつりとする。</p> <p>市が実施主体となり、市民が企画・運営に参加し以後毎年(隔年)開催する。また、将来的には市の関わりを最小限にとどめ、すべて市民主導のもとで開催されるのが望ましい。これには、祭りを主体的に担える人材を育成していくことが必要である。</p>
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
		<p>市内に伝わる歴史、文化を市民が再認識し、郷土意識を高めて愛着と誇りを持って自分のまちを盛り上げる市民の誕生。</p>
改善によって期待される効果	コスト面	コスト面
		<p>地域のまつりの補助金の削減。産業関係のまつりとの同時開催による経費の低減化。</p>
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>現状では、地域のまつりをすべて中止し、新たな市民まつりへの統廃合には困難が予想される。(開催の目的、場所、時期、内容等が異なりひとつのまつりとしての開催は困難)</p> <p>地域のまつりへの補助金を無くした場合は、事務局運営及び経費の課題から中止となる可能性が高い。</p>	